

# 《4》 つながりを創る人々の養成に関連する取組

## ① 行政からみた「協働の『地域づくり大学校』事業」

### 1 はじめに

「横浜市中期4か年計画」の施策18では、自治会町内会や区社会福祉協議会などの地域で活動する団体や、NPO法人、企業と区役所等が連携して身近な地域課題に取り組む「協働による地域づくり」の推進を目標としている。

少子高齢化の進展や人口減少の進行などにより社会情勢が変化する中、地域の課題は多様化・複雑化している。そこで、「協働の『地域づくり大学校』事業」（以下「地域大事業」という。）は、先進的な事例の現地見学やワークショップを通じて、次代の地域活動を担う区民と区職員が地域づくりを学び合い、地域課題の解決や魅力づくりを進める力を養うことを目的としている。平成22年度から「認

定NPO法人市民セクターよこはま」が実施している「よこはま地域づくり大学校」のコンセプトを一部広げて、平成26年度に、市民局事業としての地域や中間支援組織（注）との協働型でスタートさせたものである。現在、12区で取組を進めており、平成29年度に18区で開講することを目指している。

地域大事業の卒業生が地域のリーダーとなり、その中から、コミュニティを活性化する人材が生まれることも十分に期待できることから、本稿では、地域大事業の特徴や各区の取組状況等について紹介する。

### 2 地域大事業の特徴

地域大事業は、地域の魅力づくりや課題解決の手法を学ぶ場である。地域の実情に合

せて、より具体的かつ実践的に学べるような講座とするため、地域・中間支援組織・区役所の3者が、企画立案の段階からお互いの意見を持ち寄り、理解を深めながら、お互いの強みをいかして、協働により実施することとしている。そして地域大事業には、区職員も受講生として参加することを推奨しており、区職員と区民が顔の見える関係づくりをしながら、同じテーブルでお互いの長所短所への理解を深めつつ、共に学び合っている。このような過程を通じて、職員の協働マインドを醸成し、コーディネート力を高めていくとともに、3者の間に良好な信頼関係を築くこともねらいとしている。

また、年間6回程度の講座とし、講師の話を聴くだけでなく、地域のまち歩きやワークショップを行うほか、地域

課題を解決するために、受講者が自分の地域でやってみようなど、まとめた「夢プラン」を発表するなど、実践的な形式で行っていることも大きな特徴である。

### 3 各区の取組状況等

今年度は、11区で地域大事業を実施し、1区で実施に向けた準備に取り組んでいる（表1）。地域をめぐる状況は区によって異なることから、各区では、地域の実情に合わせた取組を進めており、講座の内容や進め方は様々である。

そこで、本稿では、行政からみた地域大事業の現状や課題等について、市民局の事業化前から、西区版地域づくり大学校として独自に開講し、今年で開講から4年目を迎える西区、区全体ではなく特定

執筆

圓城寺 美紀子  
市民局地域活動推進課担当係長

中盛 敦司  
市民局地域活動推進課担当係長

の地区を対象とした地域大事業を実施している瀬谷区、そして、地域の方で構成する緑区区民活動支援センター運営委員会との協働により、今年の5月に開講した緑区の係長による座談会を紹介する。

（注）中間支援組織とは、市と市民等（市民法人、自治会町内会等）を相互に媒介し、市民等の自立と課題解決を支援するため、市民等のネットワーク化と交流促進、情報収集と提供、相談とコンサルティング、調査研究、人材育成と研修、活動支援と助成又は政策提言等を行う組織（横浜市民協働条例第2条第5項）

区名	講座の名称	協働契約の主体(※1)	開始年度(※2)
神奈川	神奈川区地域づくり大学校	神奈川区連合町内会自治会連絡協議会 認定NPO法人市民セクターよこはま	H26(※3)
西	西区地域づくり大学校	認定NPO法人市民セクターよこはま にしく市民活動支援センター「こしとも広場」	H24
南	寺子屋みなみ	NPO法人横浜プランナーズネットワーク[永田みなみ台地区] NPO法人夢・コミュニティ・ネットワーク[堀ノ内睦町地区]	H27
港南	学び舎ひまわり	港南区連合町内会長連絡協議会 社会福祉法人横浜市港南区社会福祉協議会	H25
旭	あさひみらい塾	旭区市民活動支援センター「みなくる」 NPO法人アクションボート横浜	H26
金沢	金沢区地域づくり大学校	金沢区民活動センター「ゆめかもん」 認定NPO法人市民セクターよこはま 社会福祉法人横浜市金沢区社会福祉協議会	H26
緑	みどり「ひと・まち」スクール	緑区市民活動支援センター「みどりーむ」	H26(※3)
青葉	あおば魅力発見講座	あおば学校支援ネットワーク	H27
戸塚	戸塚区地域づくり大学校	NPO法人くみんネットワークとつか 社会福祉法人横浜市戸塚区社会福祉協議会 認定NPO法人市民セクターよこはま	H26
泉	泉区まちづくりみらい塾	泉区まちづくりみらい塾 認定NPO法人市民セクターよこはま	H24
瀬谷	せやの地域づくり塾	NPO法人横浜プランナーズネットワーク	H26

※1 区役所以外の協働契約の主体を記載。

※2 地域大事業として開始した年度

※3 神奈川区・緑区は、平成26年度に準備を行い、27年度に開講。

※4 都筑区は、平成28年度の開講に先立ち、「株式会社studio-L」と職員向け地域支援研修を実施するとともに、28年度の講座の内容を検討。

表1 各区の取組状況一覧

## 【座談会】

### ①これまでの取組

●中盛 まず、西区の取組についてお聞かせください。

○木村 西区では、平成24年度から認定NPO法人市民セクターよこはまとの協働で西区版地域づくり大学校として、また平成26年度から市民

局の地域大事業として、西区の市民活動支援センターを含めた3者による協働事業として実施しています。

西区の地域大事業は、すでに地域活動を行っている方のスキルアップと、これから地域活動を行ってみたい方の中から地域活動の人材発掘を目

指して実施しています。自治会町内会活動には参加しにくいけれど、地域活動には関心があるという方が、将来的に、自治会町内会活動につながれば良いと考えています。

地域活動に参加していない方にとっては、ボランティア活動ですと参加ししやすいようですが、自治会町内会活動は、一度参加すると継続していくことになるイメージがあるためか、ハードルが高いようです。私たちは、地域活動にはいくつか段階があると考えています。サークル活動が入口となり、その次が、青少年指導員やスポーツ指導員等、その次が自治会町内会活動と進んでいくのなら、まずは、地域活動に関心を持ってもらおうということからスタートにと考えています。

●中盛 どのような方が受講されていますか。

○木村 今年度は21名の方から受講申し込みがありました。受講生は、自治会町内会からの推薦の他に、広く公募を行っています。広報よこはまやホームページに掲載したり、区連合町内会の定例会で募集のお知らせを行ったり、公共施設にリーフレットを配布するなどして、区民に周知を行いました。チラシも工夫

して、他地区の取組状況を学べるとか、すでに地域活動に参加している人もスキルアップを図れるということを伝えられています。

昨年の例ですと、受講者の6割が自治会町内会の役員を担っているなど、すでに地域活動に参加している方となっています。自治会町内会の推薦者が多かったこともあり60代の参加が多く、残りの4割は、これから地域活動に参加してみたい人や関心のある方々です。今年は、20代から80代まで、幅広い世代の方が参加しています。

●中盛 それでは次に、瀬谷区の取組についてお聞かせください。

○松岡 瀬谷区では、昨年度から、NPO法人横浜プランナーズネットワークとの協働により実施しています。特定の地区連合町内会を対象に、2年間の講座として実施しています。1年目は基礎編で地域の課題の把握、共有、課題解決の仕組みづくりのための検討と実践、2年目はその活動をフォローしています。実施にあたっては課題を解決していこうという意欲や課題解決力の高い地区に対して地域大事業の制度を提案し、講座の内容、対象者を誰にするか

## 司会

中盛 敦司  
市民局地域活動推進担当係長



## 安養寺 智

緑区地域振興課地域力推進担当係長



## 松岡 文和

瀬谷区地域振興課地域力推進担当係長



## 木村 文男

西区区政推進課地域力推進担当係長





を地域と中間支援組織、行政の3者の話し合いで決めていきます。また、進捗状況に合わせて講座の内容も臨機応変に変えています。いわば、大学というよりもマンツーマンで対応する「個別学習塾」のイメージであり、そのため、事業名も「せやの地域づくり塾」としています。

特定の地区を対象に実施している理由ですが、地域の課題は地域の中で話し合い、解決策を共有しなければ課題の解決や改善に結びつかないと考えているからです。言い換えれば、各地区が同じ地域課題を持っていたとしても、課題の捉え方、課題へのアプローチの手法がそれぞれ異なりますので、区全域から受講者を集めても、地域に戻った場合にその解決方法が地域で共有できず、課題解決に結びつきにくいとも考えています。

●中盛 特定の地区を対象に実施することで、具体的な成果につなげられるようにしたいとのことですが、どのようなことを大切に地域大事業を進めていますか。

○松岡 一つは地域、中間支援組織、行政の3者が思いとゴールを共有しながら、地域の中での想いを一致させるこ



瀬谷区：地域の資源を地図に落として町あるき

塾」は地域、中間支援組織、行政が目線の高さを合わせて、相互信頼することで、一緒に学び、考え、模索し、解決策を探し出していく、お互いがお互いを高め合う関係性が構築されています。

●中盛 緑区は、この5月に地域大事業を開講したばかりですが、どのように準備を進めてこられたのかお聞かせください。

○安養寺 緑区では、昨年度、協働の相手方である緑区市民活動支援センター「みどりーむ」運営委員会とともに、地域大事業の実施に向けた準備を行いました。「みどりーむ」は、18区で唯一、地域活動に携わっている方々と区役所が一体となって運営している市民活動支援センターです。

「みどりーむ」との協働により実施するに至った経緯ですが、緑区としては、地域大事業を全区展開するという方針を受け、実施に向けた検討を始めていました。

一方、「みどりーむ」には、開設から10年を迎える中、開設当初から「みどりーむ」の運営に携わっている方々の高齢化により、次の10年の担い手を見つけないといけないという危機感がありました。

このため、これまで幅広く展開してきた講座を体系化した「みどりーむ大学」というプログラムを実施し、そこから担い手を見つけていきたいという想いを持っていました。

そこで、区役所と「みどりーむ」が一緒にできることを考えていこうということになりました。区役所としては、「みどりーむ」と協働により実施することで、緑区をよく知る地域活動実践者の視点やネットワークを生かしたプログラムにできること、そして受講生に地域大事業修了後の活動の場を提供できることを期待し、昨年7月から一緒に検討を始めました。

●中盛 講座の実施という形は一緒でも、そこに至るまでの経過が若干異なる中で検討が始まったわけですが、順調に進みましたか。

○安養寺 「地域活動の担い手発掘・育成」という目標は一致しているものの、手法やプログラムの内容などが違っていたので、アドバイザーとして、横浜市まちづくりコーディネーターの山路清貴氏に入っていたいただき、客観的な意見もらいながら検討を行いました。

まさに一歩進んで二歩下がるといって感じですが、合意形成を進

めながら、時には意見が対立することもありました。長年「みどりーむ」を担当してきた職員が、調整してくれるなどのサポートもあり、徐々にお互いのやりたいことが見えてきて、信頼関係が構築されていきました。最終的には「地域活動経験者も未経験者も」緑区を知り、緑区を好きになり、緑区で活動したい」と思ってもらえるようなプログラムにしよう」と互いの思いが一つになり、無事に今年度開講することができました。このように、助走期間を長くとったおかげで、開講後も、順調に進んでいます。

検討を一緒に重ねてきた5名の方は「みどりーむ」をはじめ様々な分野・場面で活躍している多彩な地域活動実践者です。受講生の一歩先を行く地域活動の先輩ですので、「ナビゲーター」として、引き続き地域大事業の運営に参画し、受講生の学びや仲間づくりをサポートしてくれています。特に、フィールドワークは地域をよく知るナビゲーターが自ら現場を歩き、プランを作成してくれたこともあり、受講者からもよく練られたプログラムだと好評です。

## ② 地域大事業の成果

●中盛 それでは、地域大事業の実施によりどのような成果が出ているか、皆さんにお伺いします。

○木村 取組を始めてすでに4年目ですので、昨年度までの3か年で、卒業生は69名になりました。

これまでの卒業生では、もともと地域活動に関わりがなかった方が、卒業後に、子ども会を立ち上げたという事例があります。また、26年度の卒業生は自主的にOB会を設立して活動を始めています。地域で活動されている方は、自分の地区のことはわかるけど、他の地区はあまりよく知らないということで、OB会は情報共有の場にもなっています。それから、地域大



西区：OBがサポーターとして参加

事業のサポーターとして入ってくれている方も複数おり、地域大事業で、現役の受講生と卒業生のネットワークづくりにつながっています。

実際に地域活動につながった事例もありますが、一方で、地域大事業を受講した方であれば地域の担い手として受け入れていただけるものと考え、地域の代表の方に相談してみたところ、地域にとってよく知らない人を受け入れるというのは、なかなか難しい側面があることがわかりました。今後の地域大事業の実施については、改めて講座の目的や対象とする受講生をどうするのか、実施方法を検討するなど、課題を整理していただく必要があると思っています。

○松岡 昨年度地域大事業を実施した連合自治会では、単位自治会町内会長の半数が1年交代で変わることで、連合としての活動の継続性が課題となっていました。この連合では連合自治会長さんの発案で退任した町内会長に活躍してもらおう受け皿として連合の事務局を設け、防災や地域行事の企画運営を担っていただきました。事務局機能の充実が連合の活動の充実につながるという成果の一方で、単位自治会

長さんたちからすると、「自分と事務局の関係性がわからない」と疑問も漏れ聞こえていました。そこで、この地区では、「次世代の担い手をどのように育成するか」というテーマに加え、「連合機能の明確化と充実」も追加しました。オーダーメイド形式で講座を組み立てる形式だからこそできたものです。この結果、事務局体制の見直しと明確化、そしてその結果を単位自治会町内会で共有するという成果が生まれました。

今年度は二年目ですので、具体的に内容を整えていく段階と考えています。今年が連合自治会設立50周年にあたるのですが、周年行事としての3本柱、「昔を知る」、「今を知る」、「人材育成」を立てています。実施にあたっては連合自治会役員だけではなく事務局が重要な役割を果たしていくことや「人材育成」を50周年記念事業に組み込んでいくことも昨年度の地域大事業の成果といえます。

また、他地区への展開の点では、一地区に重点的に支援をすることで具体的な成果が生まれ、それが他地区への事業展開のきっかけとなります。

○安養寺 自分の活動プラン

「夢プラン」について語り合ったグループディスカッションでは、今まで漠然としたプランが具体的に変わったり、新しいつながりができたり、新しいつながりができたりした。あるグループでは、それぞれのプランに「歴史を生かしたまちづくり」という共通するキーワードがあり、担当ナビゲーターのアドバイスのもと、新たなグループを発足し、活動が始まりました。

また、受講生同士のつながりにより、活動の場が広がった人もいます。こだわりの手法でコーヒーをいれる受講生は、別の受講生が企画する多世代交流バザールでのコーヒーの提供や、同じ受講生である緑区社会福祉協議会の職員の紹介で、地域ケアプラザでコーヒーボランティア養成講座の講師を務めることになりました。

他にも、受講生同士が集まって勉強会を行うなど、地域大事業を通じて個々の思いや特技を知ることや、共感や刺激が生まれ、仲間づくりや新たな活動につながっています。

## ③ 地域大事業の評価

●中盛 区役所として、この地域大事業をどのように評価していますか。

○木村 今年は受講の対象をわかりやすくしてパンフレットを工夫したこともあり、20代・50代の方々の受講が過半数を超えました。受講生の志望動機の傾向としては、自治会など地域の様々な活動に興味がある方が多く見受けられます。地域大事業の効果としてすぐに地域課題の解決や担い手づくりにまで結びつかせるのはなかなか難しいのですが、地域活動に入るためのきっかけとして、地域組織の活動につながる場でも良いと考えています。

○松岡 地域の方にとっては、身近な地域課題の解決を自分たちで図っていかなくてはならないけれど、なかなか手につかないという状況で、地域大事業として専門家と行政が入り、「毎月集まって、一緒にやりましょう」と行政が具体的に前向きな姿勢を打ち出すことで、やる気を再度高める機運が生まれます。つまり、この地域大事業が、地域の活動を後押しするシステムになっていると思います。

○安養寺 企画から運営まで「みどりーむ」と二人三脚で進めていることで、「ナビゲーター」の存在など緑区の特性を生かしたプログラムになりました。「みどりーむ」を知





緑区：修了式で全員が夢プランを発表

らなかつた受講生も、地域大  
事業により「みどりーむ」を  
積極的に活用するようになり  
ました。

また、地域大事業と区で実  
施している様々な事業を連携  
することで、より効果的なプ  
ログラムにする工夫をしてい  
ます。例えば、活動プランが  
具体化している人は「緑区地  
域課題チャレンジ提案事業」  
といった助成制度を活用でき  
るよう、募集スケジュールや  
申請に必要な項目を考慮しま  
がら、地域大事業を設計しま  
した。活動プランが実現する  
よう、様々な事業を組み合わ  
せて支援したいと考えていま  
す。

の課題についてお聞かせくだ  
さい。

●中盛 最後に、地域大事業

○木村 西区の取組も4年目  
を迎えており、一般公募によ  
る受講生の確保や地域の推薦  
による受講生の確保など、受  
講生集めが難しくなってきた  
います。

また西区の特徴として、地  
域活動の歴史も長く住民の入  
れ替わりが少ない地域もあ  
り、活動の中心となっていて  
のが70代80代と高齢化してい  
ます。地域大事業の受講生を  
地域活動の担い手として、地  
域につなげていくことが重要  
と考えていますが、どのよう  
につなげていくかが課題とな  
っています。

○松岡 瀬谷区方式での課題  
は4つです。1つ目は、地域  
の課題を地域大事業に結び付  
け解決に導いていくため地域  
と中間支援組織、職員の良好  
な関係性を構築すること、2  
つ目は、新たな地域への展開  
方法、3つ目は、中間支援組  
織の不足、そして、4つ目は、  
長期的かつ多角的な視点での  
評価を行うことです。

1つ目、2つ目は地区支援  
チームの活動を通じて地域の  
課題を把握し、地域の実情に  
合わせた提案をする、また、  
中間支援組織も地域事情をよ  
く知ることが大切です。ま

た、例えば、実施にあたって  
「塾を導入したいが時間がな  
い」という地域には、連合の  
定例会の前に「塾」を開くな  
ど負担軽減を図る工夫を行う  
必要があります。

3つ目、4つ目の課題はす  
べての地域大事業に共通する  
ものです。3つ目の課題は、  
今後18区展開の入り口で大き  
な壁となります。4つ目の課  
題ですが、そもそも地域課題  
は長年にわたり解決できな  
かつたものです。その課題は  
1、2年の地域大事業の実施  
のみで解決できるものではな  
く、この地域大事業を契機に  
5年、10年という長期の視点  
で、地域大事業を含めた広い  
意味での地区支援に取り組む  
ことにより地域課題の解決に  
つなげると考えています。そ  
のため、特に経営責任職は地  
域課題解決に対して地域大事  
業を含めた施策を組み合わせ  
展開していくという大局的な  
視点からの区政運営を、一方  
で地域大事業を担当する運営  
責任職、職員は事業の評価が  
難しいことを事業評価の寛大  
化に結びつけず、事業効果が  
高く、かつ効果が継続する事  
業展開を考え続ける心構えが  
必要だといえます。

○安養寺 「地域活動の担い  
手育成」に向けて、受講生が

地域で活動を始められるよう  
フォローアップをどのよう  
に進めるかが課題です。特に活  
動が具体化していない受講生  
は、彼らが何かをやりたいと  
思った時に支援できるよう、  
常にコンタクトをとれる関係  
性をつくっておくことが大切  
です。そこで、地域大事業の  
サポーター制度をつくり、1  
期生のつながりを発展させる  
チーム、2期生の学びをサ  
ポートするチームにわけて募  
集したところ、多くの受講生  
がサポーターになってくれま  
した。

これからもナビゲーターの  
皆さんとともに、一人一人の  
受講生に寄り添って、活動プ  
ランの実現にむけて、きめ細  
やかなフォローアップをした  
いと考えています。受講生が  
やりたいことから出発し、一  
人一人の思いがカタチになっ  
た先に、地域課題の解決や魅  
力づくりなど地域の活性化に  
つなげればと願っています。

●中盛 今日ありがとうございます  
ございました。各区が地域の実  
情にあわせて様々な工夫を凝  
らしながら、地域大事業を進  
めていることがわかりました。  
卒業生を具体的な地域活動  
につなげられるように、緑区  
では、活動の場を持つ「みど

りーむ」との協働により地域  
大事業を実施したり、西区で  
は、卒業後、受講生同士が情  
報共有を図る場として、OB  
会などのネットワークづくり  
に取り組みだりされていると  
のお話がありました。こうし  
た取組の結果として、すでに  
地域で活躍されている卒業生  
もいるなど、成果が表れはじ  
めています。

また、瀬谷区のように、特  
定の地区を対象にすることで  
確実に成果につながるという手  
法も、非常に効果的であると  
思いました。

一方で、受講生を卒業後す  
ぐに地域活動につなげること  
はなかなか難しく、長期的な  
視点で受講生をサポートして  
いく仕組み等が必要とも感じ  
ました。

今後、29年度の全区開講を  
目指して進めてまいります  
が、すでに開講している区に  
ついても、地域活動に参加さ  
れている方々のさらなるスキ  
ルアップを目的とした地域大  
事業の開催について検討した  
り、区単位から、より身近な  
地域を単位とした展開によ  
り、地域に密着した担い手づ  
くりを進めるなど、区や中間  
支援組織等と連携しながら、  
充実を図っていきたいと思  
います。